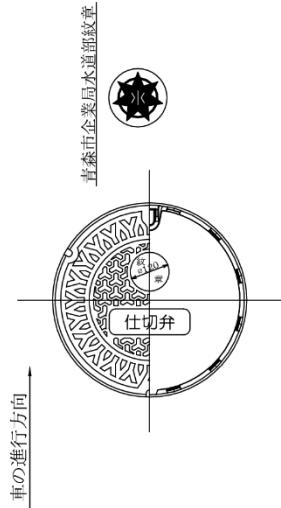


# 資料-3

## 標準図集

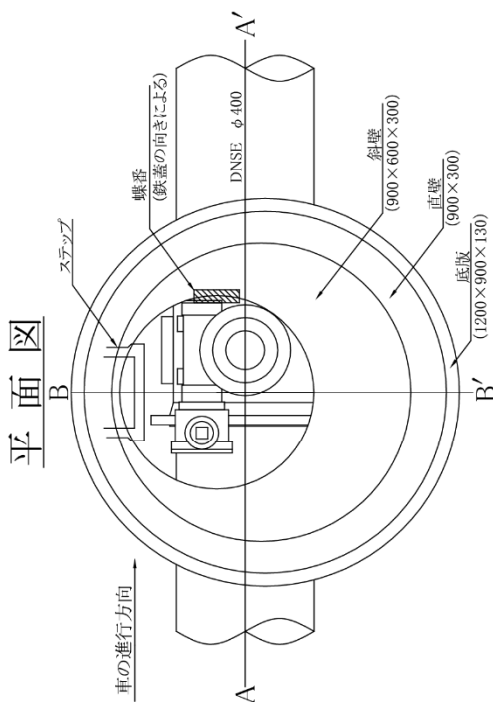
# 仕切弁(バタフライ弁)防護柵図①

鉄蓋姿図(φ 600)

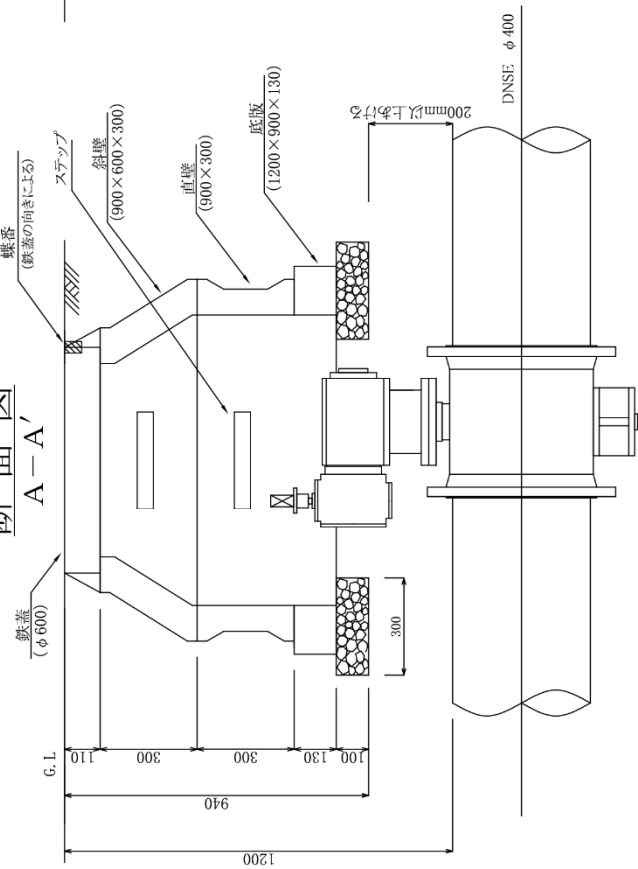


※鉄蓋の高さ調整が必要となった場合は、ボルトナットで高さを調整後、隙間を無収縮モルタルで充填すること。ただし、その方法について事前に監督員と協議すること。

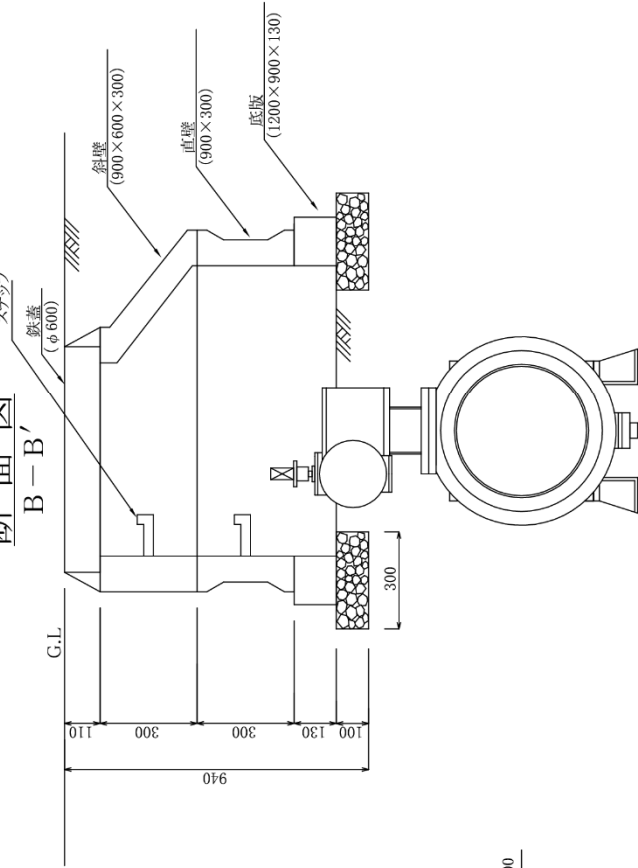
※鉄蓋の向きは、車の進行方向に対し文字が正面となるように設置すること。



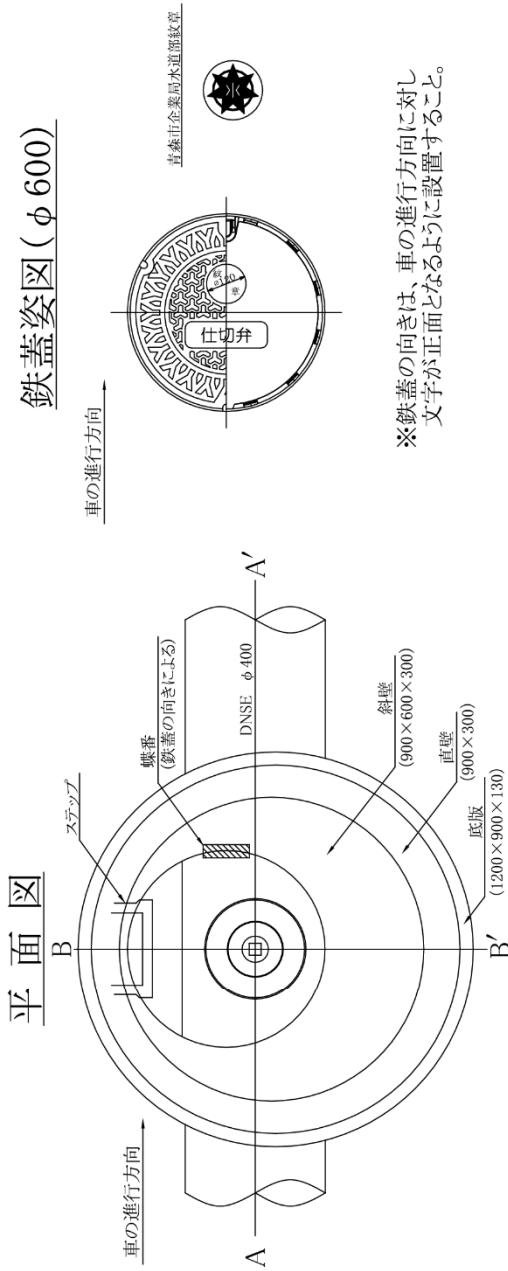
断面図 A-A'



断面図 B-B'

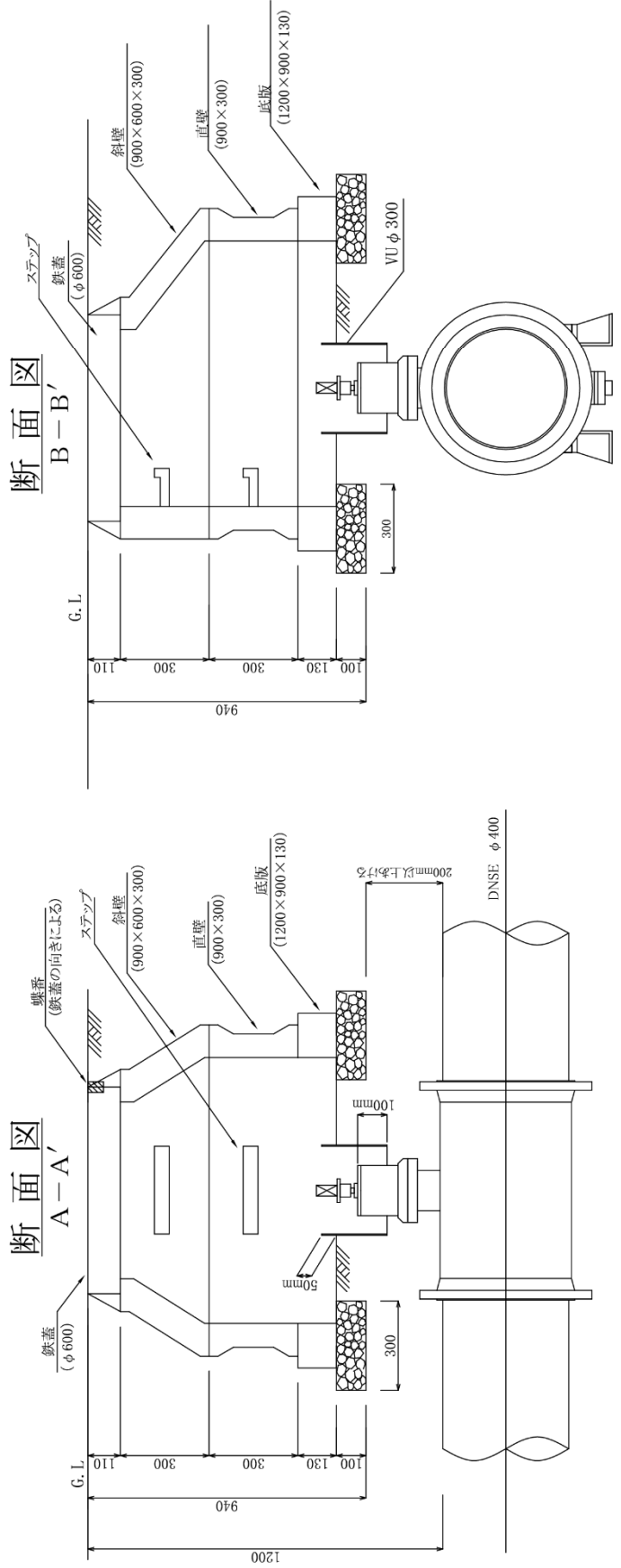


# 仕切弁(バタフライ弁)防護柵図② (センターキャップ式)



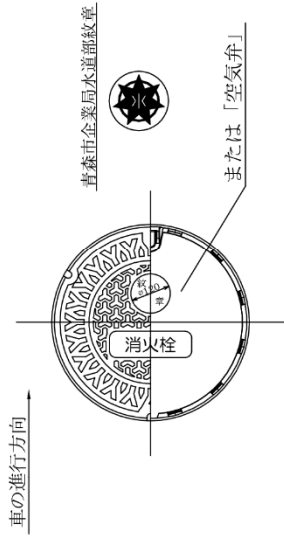
※鉄蓋の高さ調整が必要となった場合は、ボルトナットで高さを調整後、隙間を無収縮モルタルで充填すること。ただし、その方法について事前に監督員と協議すること。

※鉄蓋の向きは、車の進行方向に対し文字が正面となるように設置すること。



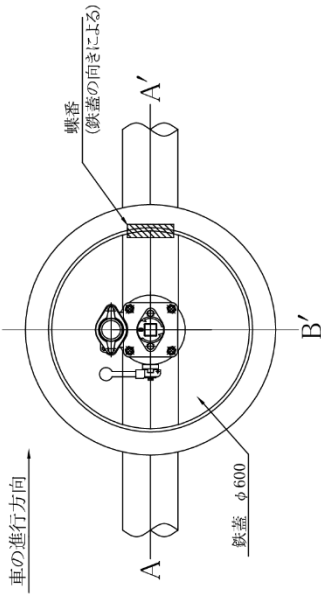
# 空気弁・地下式消火栓防護柵図

鉄蓋姿図(φ600)

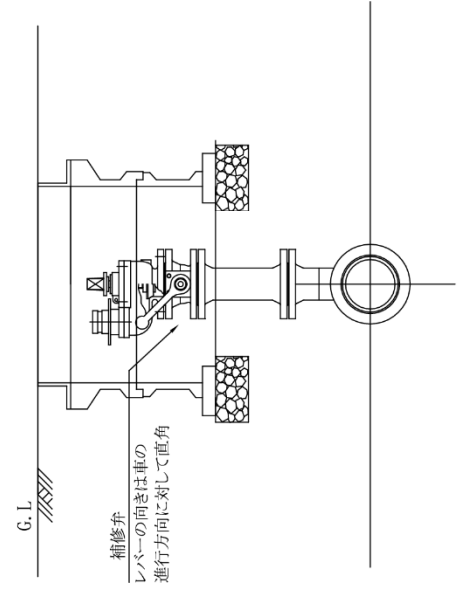


※鉄蓋の向きは、車の進行方向に対し文字が正面となるように設置すること。

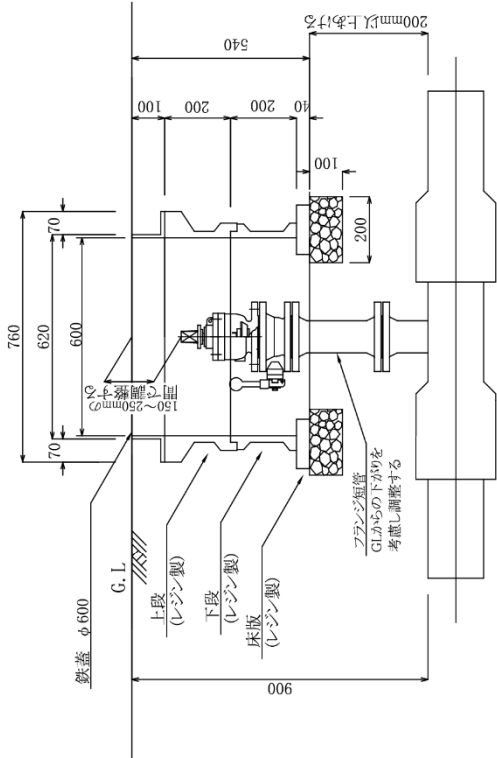
平面図



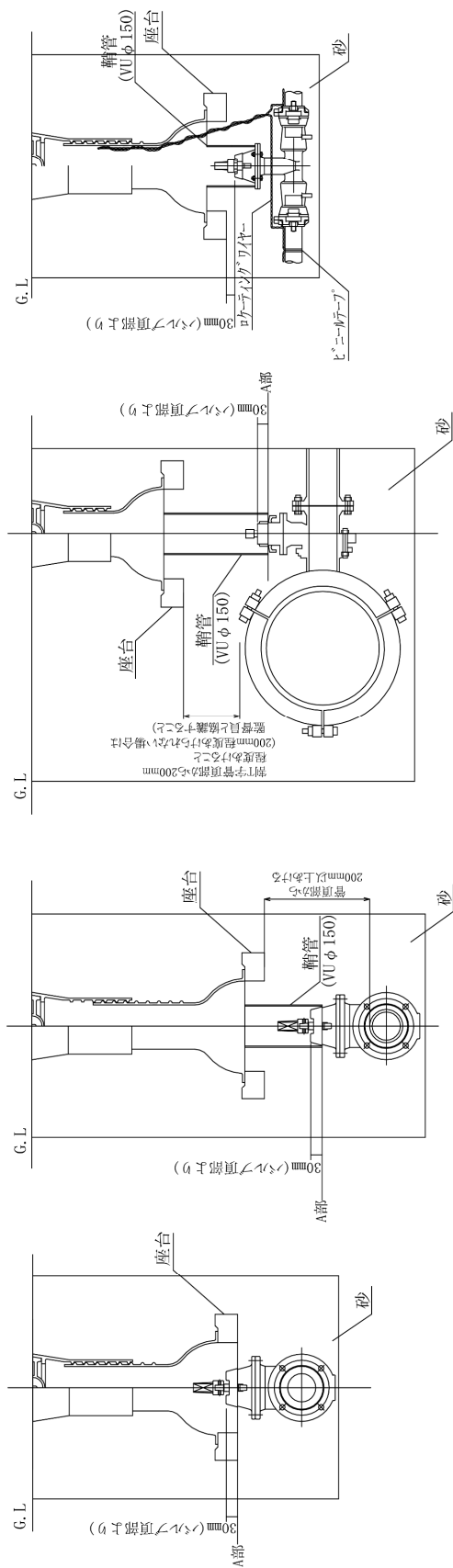
断面図  
B-B'



断面図  
A-A'



## 仕切弁筐座台設置図



【通常の場合】

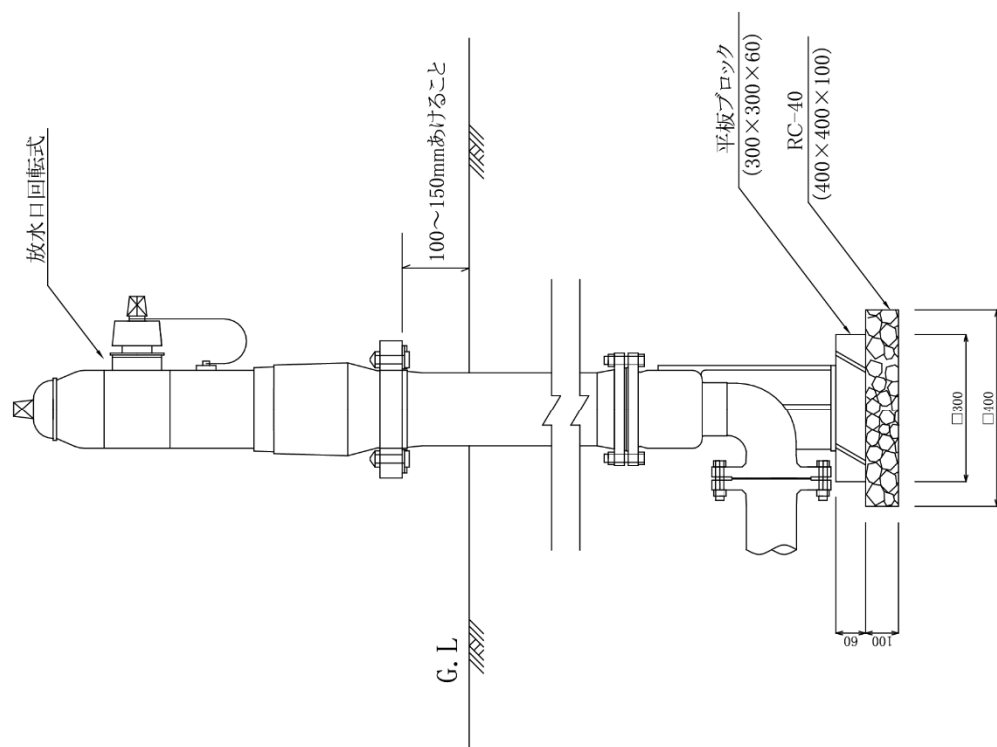
【埋設深が深い場合や割T字の場合】

【A部が分岐本管より深い場合】

【V-KING)7トφ50の場合】

※ A部に座台または鞘管の下端をあわせるようにする。  
 ただし、V-KING)7トφ50の場合は、バルブ頂部より30mmの間隔をあけた位置に座台の下端をあわせること。  
 ロケータイングワイヤーは、ポリエチレン管用浸透防止スリーブの上にピニオンテープで巻き、バルブ操作に支障がないように鞘管の外側を通して、たるみなく筐のチェーン接続部に結ぶこと。

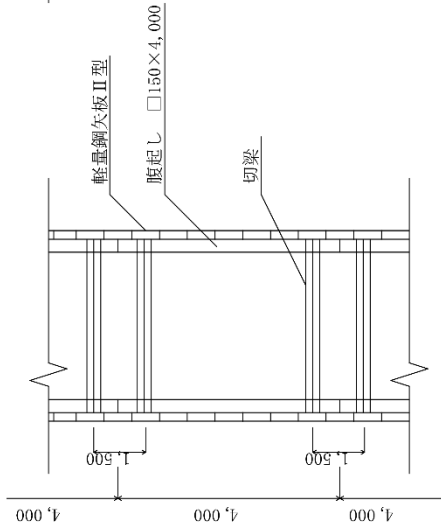
# 消火栓設置図



※消火栓の設置位置、放水口の向き及び副弁の位置は、監督員と協議すること。

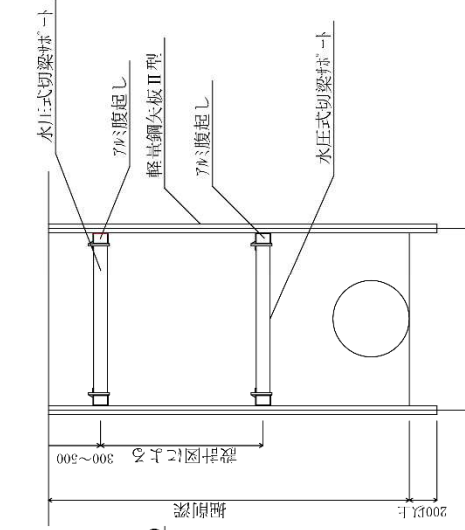
# 土留め標準図

平面図



断面図

(軽量鋼矢板)

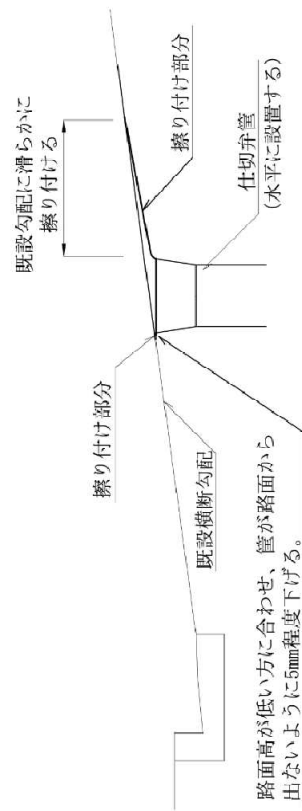


矢板種別	掘削深 (II)	7#腹起こし	段数	水圧式切梁	斜式切梁
軽量鋼矢板 II 型	2.0m以下	110mm×130mm×4m	1	0.45m以上～2.10m未満	0.45m以上～2.10m未満
	3.5m以下	110mm×130mm×4m	2	0.45m以上～2.10m未満	0.45m以上～2.10m未満
	4.0m未満	110mm×130mm×4m	3	0.45m以上～2.10m未満	0.45m以上～2.10m未満

## 仕切弁管舗装擦り付け参考図

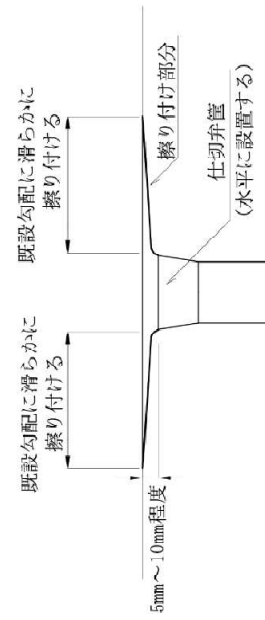
路面に傾斜がある場合

横断面図



路面に傾斜がない場合

横断面図



# 舗装復旧一般図

